

Orchestra Ensemble
Kanazawa

with
Chorus
Ohyama

2016

ありがとう大山文化会館 第21回演奏会

オーケストラ・アンサンブル金沢
with 合唱団おおやま 定期公演



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)

とき/ 2016.8/28日 ところ/ 富山市大山文化会館 14:00開演
〔主催〕(公財)石川県音楽文化振興事業団、合唱団おおやま 〔共催〕北日本新聞社 〔後援〕FMとやま

合唱団おおやま 代表

谷崎 修一

本日は暑い中ご来場いただき、ありがとうございます。
います。

合唱団おおやまは、旧大山町民文化会館の自主文化事業として、平成7年8月に産声を上げ、以来毎年度オーケストラとの共演による演奏会をここ大山文化会館で開催し、今年2月には結成20周年記念第20回演奏会を開催しました。

その後の演奏会については、富山市の主催事業ではなくなること、大山文化会館が平成31年3月で閉館すること、また、オーケストラ・アンサンブル金沢with合唱団おおやまの定期公演としての位置づけから、より大きなホールで、大規模なオーケストラと大規模な合唱による演奏会とすることを決定しており、来年の8月27日には、ヴェルディのレクイエムの公演を予定しています。

しかし、大山文化会館は、合唱団おおやまが練習の場としてもずっと利用してきた思い出の詰まった場所です。ここでの活動に区切りをつけ、会館をはじめこれまで支援していただいた方々に感謝の意を表す機会として、約6か月の短い練習期間ではありましたが、このたび、当団の演奏会のスタイルだった室内オーケストラ(今回は弦楽のみ)とピアノと中規模の合唱による現代作曲家の曲をメインにした演奏会を開催させていただきました。「ありがとう大山文化会館」の気持ちを込めて歌いたと思います。



山下一史(指揮)

1984年桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。86年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。

85年12月からカラヤンのアシスタントを務め、ベルリン・フィル演奏会で急病のカラヤンの代役としてゾーンズ姿のまま「第九」を指揮し話題となる。以降、アンサンブル金沢プリンシパル・ゲスト・コンダクター、九響常任指揮者などを歴任。2002年より大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管常任指揮者、08年4月より同団名誉指揮者。06年より仙台フィル指揮者として迎えられ、R.シュトラウス「英雄の生涯」などのCD制作を行うなど積極的な活動を展開。09年4月から12年3月まで同団正指揮者。09年4月にはサンクトペテルブルク響定期に出演し、大成功を収めた。また、11年2月シューマン「ゲノフェーフア」日本舞台初演、13年1月水野修孝 歌劇「天守物語」。16年4月よりニューフィルハーモニーオーケストラ千葉音楽監督。現在、オペラ、オーケストラの両面において着実な成果を積み上げている指揮者として、ますます注目を浴びている。

1 グリークノホルベルク組曲

Edvard Hagerup Grieg / "Fra Holbergs Tid" Op.40

- 1 前奏曲 Allegro vivace
- 2 サラバンド Andante espressivo
- 3 ガヴォットとミュゼット Allegretto-Poco piu mosso
- 4 アリア Andante religioso
- 5 リゴドン Allegro con brio

2 ビートルズ THE BEATLES

作詞・作曲 ジョン・レノン=ポール・マッカートニー
John Lennon & Paul McCartney

編曲 倉知竜也

- 1 A Hard Day's Night ア・ハード・デイズ・ナイト
- 2 Yesterday イエスタデイ
- 3 Hey Jude ヘイ・ジュード
- 4 Let It Be レット・イット・ビー
- 5 The Long And Winding Road
ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード

3 ウーラ・ヤイロ/ ダークナイト・オヴ・ザ・ソウル

Ola Gjeilo/DARK NIGHT OF THE SOUL

作詩/St. John of the Cross

4 ポール・ミーラー/ スターバト・マター

Paul Mealor/STABAT MATER

- 1 Stabat mater dolorosa 悲しみの母は立っていた
- 2 Eia mater, fons amoris さあ、御母よ、愛の泉よ
- 3 Virgo virginum praeclara いと清き乙女の中の乙女よ
- 4 Christe, cum sit hinc exire キリストよ、私がこの世を去る時には



1 エドヴァルド・ハールゲルプ・グリーグ(1843~1907ノルウェー)は、ノルウェーの民族音楽を用いた曲を多数作曲した、国民楽派の作曲家として有名である。組曲「ペール・ギュント」やピアノ協奏曲の冒頭は、聞けばどなたもきっと聞き覚えがあるはずだ。

題名の「ホルベルク組曲」はドイツ語の俗称で、正確には組曲「ホルベアの時代から」である。ホルベアとは「デンマーク文学の父」と呼ばれる文学者ルズヴィ・ホルベア(1684~1754)のことである。ホルベアはグリーグと同じノルウェーのベルゲン生まれであり、この曲は、生誕200周年となる1884年にそのベルゲンで開催された記念祭のために、ピアノ独奏曲として作曲された。その翌年に弦楽合奏に編曲されている。

副題に「古い様式による組曲」とあるように、この作品はホルベアが生きていた時代の音楽、すなわちバロック音楽の様式を借りて書かれている。グリーグ本人は「ホルベアの同時代人だった、フランスのクラヴサン奏者達の組曲をモデルにさせてもらった」とコメントしている。

2曲目のサラバンドとは3拍子の重々しい舞曲のこと。3曲目のカヴォットはフランスの地方のフォークダンス。ミュゼットはバグパイブに似たフランスの民族楽器で、これを使った舞曲もミュゼットという。4曲目のアリアは、本来はオペラなどで歌われる旋律的で劇的な独唱曲のことで、この場合はそれを思わせる曲のこと。終曲のリゴドンは南フランスのプロヴァンス地方を起源とする舞曲。

2 みなさまがよくご存知のビートルズの数々の名曲の中から選りすぐりの5曲を、7年前の第14回演奏会のために、合唱+ピアノ+弦楽オーケストラの編成に編曲されたものの再演である。

ビートルズは、イギリスのリバプールで結成。1962年ラヴ・ミー・ドゥでレコード・デビュー。1970年解散。名前のBeatlesは、かぶとむし(beetle)とビート(beat=拍子)をかけている。アメリカのシングル・ヒット・チャートで20曲、本国イギリスでは17曲が1位となり、ギネス・レコードとなっている。

1. ア・ハード・デイズ・ナイト▶64年7月発売(シングルカット。以下同じ)。タイトルは、過密スケジュールにリンゴがつぶやいた言葉(直訳すれば「きつかった日の夜」)がそのまま使われた。ビートルズがロックバンドであることはいわずもがなであるが、今回の5曲の中では唯一のロックである。

2. イエスタデイ▶65年9月発売(米)。イギリスでは当初シングルカットされていない。ある朝目覚めるとこの曲がポールの頭の中に完璧にでき上がっていた。あまりに完璧だったため、ポールは回りの人に既成の曲かどうか聞きまわったとのこと。

3. ヘイ・ジュード▶68年8月発売。ジョンの離婚に際し、ジョンの5歳の息子ジュリアンを励ますためにポールが書いた曲。だから、最初は「Hey Jules」というタイトルだった。

4. レット・イット・ビー▶70年3月発売。イギリスでのビートルズ最後のオリジナル・シングル。曲中、僕の前に現れて「Let It Be(あるがままに)」と言う「Mather Mary」は、聖母マリアであるという説と、ポールの母メアリーであるという説がある。

5. ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード▶「この長く曲がりくねった道は、君の扉へ導いてくれる。決して消えることはない」。70年5月発売(米)。ビートルズ最後のオリジナル・シングル。その前月にポールはビートルズからの脱退を公表している。

3 詩は、St. John of the Cross(十字架の聖ヨハネ)(1542-1591スペインの聖職者)の同名の魅惑的な詩から取られた3節である。原詩はスペイン語で、英訳されたものを使っている。

ウーラ・ヤイロ(1978~)は、ノルウェーに生まれ、ニューヨークで活躍中のピアニスト・作曲家。クラシックからジャズ、映画音楽まで幅広いジャンルで活躍しており、合唱作品は、無伴奏の宗教作品を中心に数多く作曲している。

この曲は、2010年作曲。曲は3部で構成されている。第1部は、とても速い7拍子。ピアノと弦楽がずっと細かい7拍子を刻んでおり、強い切迫感がある。中間部は、ゆっくりのテンポで、ピアノの幻想的なメロディから始まり、男声の寂しげなメロディを経て、転調を繰り返す壮大なハーモニーへと次々と曲調を変えていく。第3部は第1部の7拍子が再現するが、合唱の力強いハーモニーが加わり、暗い夜の魂の高揚が歌われる。詩のイメージにマッチした幻想的で美しい曲である。

4 スターバト・マーテル(悲しみの聖母)は、13世紀に生まれたカトリック教会の典礼文の1つである。ヤーコポーネ・ダ・トーディの作とされる。わが子イエス・キリストが磔刑となったときに、聖母マリアが受けた悲しみを思う内容となっており、中世の詩の中でも極めて心を打つものの1つである。中世以来、多くの作曲家がこの詩に曲をつけている。

作曲者であるポール・ミラー(1975~ イギリス)は、2011年のウィリアム王子とキャサリン妃の結婚式で演奏されたUbi caritas(ウビ・カリタス)の作曲者として有名である。

このスターバト・マーテルは、2008年作曲。全曲を通して不協和音を加えた美しい和音が続き、大変豊かで美しいハーモニーを生み出している。原詩は3行20節で構成されているが、ミラーはそのうち15節を使っている。4曲に構成されているが、全曲切れ目なく演奏される。1曲目はアカペラ(無伴奏合唱)で、表情豊かなテンポの揺れと音の強弱がつけられ、詩の深い悲しみが語られる。2曲目はゆったりと流れるオーケストラと合唱にたどようにソプラノ独唱が歌い、心地よい空間を醸し出す。3曲目は一転して、速いテンポの短調の曲で、強弱により強い緊張感を生み出している。

4曲目は、1曲目と同じ曲にオーケストラを加えることで、より壮大な曲に仕上げている。

四津谷 泰子(ソプラノ)

洗足学園魚津短期大学を経て、洗足学園大学音楽学部声楽専攻卒業。

二期会オペラ研修所修了。声楽を碓井智子、山根比奈子の各氏に師事。短期大学を首席で卒業し、卒業演奏会に出演。

また、定期演奏会にソロで出演。富山県オペラ協会公演「ヘンゼルとグレーテル」(グレーテル)、「魔笛」(童子1)、フレッシュコンサート、ニューイヤーガラコンサートに出演。

その他オペラでは「小さな煙突そうじ」(サム)、「フィガロの結婚」(バルバリーナ)、「ドン・ジョヴァンニ」(ヴェルリーナ)、

コンサートではモーツァルト「悔悟するダヴィデ」ソプラノ1ソロ等務める。

富山県オペラ協会、日本声楽アカデミー、東京室内歌劇場、二期会、各会員。



ソプラノ

飯田 三千代
上埜 直子
岡本 洋子
熊倉 理子
坂口 佳子
谷崎 キミ子
谷崎 千紗
谷崎 千鶴
千葉 多恵
山崎 忍
山崎 陽子
松井 照枝

アルト

麻島 利子
井口 洋子
井上 澄子
岡本 祀子
岡本 智子
奥野 知子
桶谷 道子
片山 美富里
北村 由理子
木村 まゆみ
小島 久美
高木 茂子
津田 玉美
仲井 葉子
中川 律子
原田 栄子
平崎 康子

テノール

飯田 泰三
井内 学
市橋 健
廣野 正和
牧 重和
三羽 康嗣
山崎 勝幸

バス

上田 慎一
上野 友二郎
谷崎 修一
野入 豊光
松井 輝

団員
募集中

平成7年8月に旧大山町民を中心に結成。平成8年8月に第1回の「夏のメサイア」を公演。以来、毎年夏にオーケストラとの共演による公演を重ねてきた。来年8月27日(日)にヴェルディのレクイエムの公演を予定しており、合唱団員募集中。お問合せは谷崎(090-8093-7549)まで。

合唱指揮 内山 太一

武蔵野音楽大学声楽科卒。ミュンヘン国立音楽大学声楽科卒。シューベルトの三大歌曲集等ドイツ歌曲のリサイタルを数多く開催。藤原歌劇団公演のオペラやヘンデル「メサイア」ベートーベン「第九」などに出演。1993年再度一年間ドイツに留学。これを機に故郷上市を拠点に演奏活動を展開している。

合唱団おおやま、入善混声合唱団、男声合唱団「ジョイフル・フレンズ」、北アルプス混声合唱団、黒部第九を歌う会、大地の会、女声合唱団うたごえサークル等の指導を行う。

声楽研究グループ「大地の会」主宰。富山県オペラ協会理事。元武蔵野音楽大学声楽科講師。元洗足学園魚津短期大学声楽科講師。富山県上市町にて内山音楽教室を主宰。

ピアノ 村上 麻理

洗足学園大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を卒業、同大学専攻科修了。黒田素子、横山幸雄、加藤 徹 各氏に師事。富山広域圏文化交流事業クラシックシリーズ、富山テレビクラシックシリーズにてソロリサイタルに出演。

海外アーティストとのピアノ五重奏を共演の他、くtoyamaレディーズ・オーケストラOASISとピアノ協奏曲を共演NHK富山の朗読会に女性アナウンサーとコラボレーションで演奏。また室内楽、歌曲、管弦楽等の伴奏でも活躍している。

2005年 富山県芸術文化協会奨励賞表彰。現在、ミヤコ楽器店講師。コロバスターレ、合唱団おおやま専属ピアニスト



Orchestra Ensemble Kanazawa

オーケストラ・アンサンブル金沢

オフィシャルサイト <http://www.oek.jp/>

1988年、世界的指揮者、故岩城宏之が創設音楽監督(現在、永久名誉音楽監督)を務め、多くの外国人を含む40名からなる日本最初のプロの室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。石川県立音楽堂を本拠地とし、世界的アーティストとの共演による年20回の定期公演、東京、大阪、名古屋での定期公演他、海外公演など精力的な活動を行っている。

設立時より多くの現代曲を委嘱し、初演・CD化や、ジュニアの指導、邦楽との共同制作などオーケストラ育成・普及活動にも積極的に取り組んでいる。ドイツグラモフォン、エイベックスなどより90枚を超えるCDを発売。07年1月より、井上道義を音楽監督に迎え、ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭はじめ新たな活動を展開。ますます注目を集めている。

